



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>						
建物名称	渡辺鉄工所吉田工場新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

<b>2. 重点項目への取組み度</b>						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0 /5		ふつう			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.7 /5		がんばろう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 /5		ふつう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0 /5		ふつう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

<b>3. 重点項目についての環境配慮概要</b>			内訳対応項目				
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>			得点		3.0		
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④内壁・溶融亜鉛メッキ鋼板の耐用年数は25年。 ④給排水配管の耐用年数は40年、消火設備の配管には30年耐用できる配管を使用した。	Q-1 2 2.1 2.12 ① Q-1 3 3.1 3.13 ② 3.2 3.21 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④			① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔		
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数24%になるよう、敷地境界側に緑地・植栽を設けた。 ⑥敷地の64.5%分の空き地を確保し、敷地内の温熱環境をよくするよう考慮した。	Q-3 1  3 3.2			⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上		
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑩建物で消費されるエネルギー消費量について、年間にわたり把握できている。	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2			⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制		
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪従来品の71%分の節水ができるように、便器とタンクを組み合わせた。 ⑬断熱材には発泡剤を使わず、オゾン層破壊の心配がない建築物とした。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3 ⑬			⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒		
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮夏季の卓越風向に面する建築物の見付面積比を17%に抑え、また風が回復しやすいよう隣棟間隔指数6.65%分の隣棟間隔を形成し、風通しに配慮した。	LR-3 1 2 2.2			⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>			得点		2.7		
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰機械・配管の支持方法において、耐震クサシになるように設計した。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰			⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備		
	<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>			得点		3.5	
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳工場の階高10.4m、壁長さ比率0.04とし、空間にゆとりを持たせた。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲			⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ		
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑道路境界線側の植栽シラカシは高さ1.2mとし、周辺からの視界を遮らず防犯性・防災性に配慮できるようにした。	Q-3 3 3.1			㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>			得点		3.0		
	■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/③まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上) ②外構緑化指数24%になるよう、敷地境界側に緑地・植栽を設けた。 ④敷地の64.5%分の空き地を確保し、敷地内の温熱環境が向上するよう考慮した。	Q-3 1 2 3 3.2			② 生物環境の保全と創出 ③ まちなみ景観への配慮 ④ 敷地内温熱環境の向上		
	■敷地外環境対策 (⑤持続可能な森林から産出された木材/⑥温熱環境悪化の改善) ⑥夏季の卓越風向に面する建築物の見付面積比を17%に抑え、また風が回復しやすいよう隣棟間隔指数6.65%になるよう隣棟間隔を形成し、風通しに配慮した。	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2			⑤ 持続可能な森林から産出された木材 ⑥ 温熱環境悪化の改善		

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

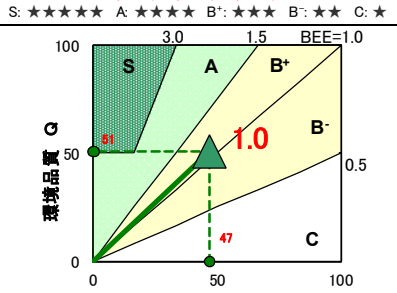
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	渡辺鉄工所吉田工場新築工事	階数	地上1F
建設地	静岡県榛原郡吉田町川尻草ボタ東4	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	33 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,808 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月 予定	評価の実施日	2021年/8/5
敷地面積	23,475 m <sup>2</sup>	作成者	相模 明
建築面積	8,056 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	8,056 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

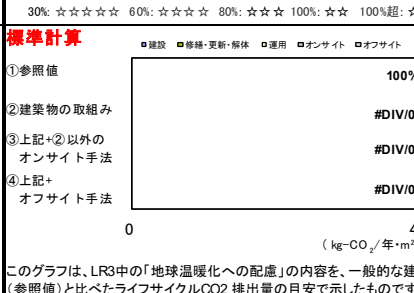
★ ★ ★ ★ ★ A ★ ★ ★ ★ ★ B+ ★ ★ ★ ★ ★ B- ★ ★ ★ ★ ★ C ★



### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

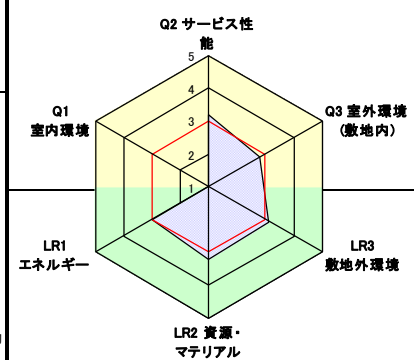
標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

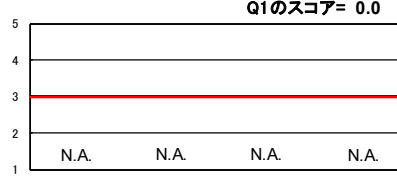


### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

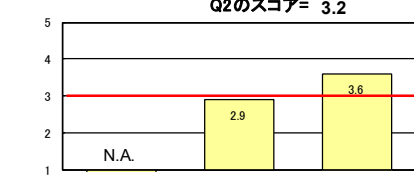
#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0



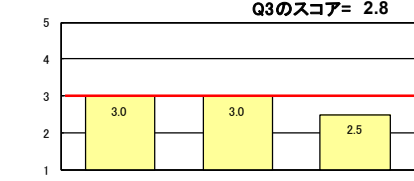
#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2



#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8




### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.1**

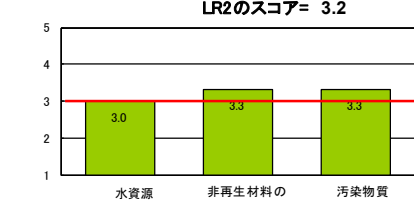
#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0



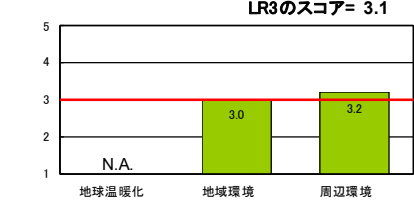
#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2



#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1



3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> これは、CASBEE静岡2016年版による評価である。		<b>その他</b> 特になし
<b>Q1 室内環境</b> ※本工場は全て工場の生産エリアであるため、対象外である。	<b>Q2 サービス性能</b> 工場の階高10.4m、壁長さ比率0.01とし、生産空間にゆとりを持たせた。また、機械・配管の指示において、耐震クラスとし、災害時に設備が機能できるように配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外構緑化指数24%になるよう、敷地境界側に緑地・植栽を設けた。また、敷地の64.5%分の空き地を確保し、敷地内の温熱環境が向上するよう配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> ※本工場は全て生産エリアであるため、省エネ法における計算を行っていない。 建物で使用されるエネルギーの消費量を、年間にわたって把握できるようにしている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 従来品の71%分の節水ができるように、便器とタンクを組み合わせさせた。また、機械・配管の指示において、耐震クラスとし、災害時に設備が機能できるように配慮した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 夏季の卓越風向に面する建築物の見付面積比を17%に抑え、風が回復しやすいよう隣棟間隔指数6.65となるように隣棟間隔を形成し、風通し等に配慮した。また、ゴミの処理において、多量分別が可能なスペース設置およびビン・カン減量化の為の対策をした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい